

令和4年度 第1回東部地域まちづくり懇談会

日 時 令和4年10月7日（金）
午後2時00分
会 場 榎法華総合センター

次 第

- 1 開 会
- 2 座長挨拶
- 3 出席者紹介
- 4 議 題
 - (1) 函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方について
 - (2) 分科会報告
- 5 その他
- 6 閉 会

令和4年度 第1回東部地域まちづくり懇談会 出席者名簿

地 域	団 体	役 職	氏 名
戸 井	戸井地区町会連合会	会 長	まつ だ まさ し 松 田 正 志
	戸井漁業協同組合	専務理事	こし だ つか ひろ 越 田 司 洋
	函館東商工会	理 事	さ さ き たつ や 佐々木 竜 也
	函館市第26方面民生児童委員協議会	会 長	うえ の のり こ 植 の 野 範 子
	函館市戸井支所	支所長	にし かわ やす ひさ 西 川 康 之
恵 山	恵山地区町会連合会	会 長	おき だ まさ ひろ 長 田 征 洋
	えさん漁業協同組合	欠 席	
	函館東商工会	副会長	よこ て しのぶ のぶ 横 手 義 信
	函館市第27方面民生児童委員協議会	会 長	つば 秀 子 鳶 秀 子
	函館市恵山支所	支所長	も と しのぶ お 瀬 戸 義 夫
楳法華	楳法華地区町会連合会	会 長	かわ ぐち ひで たか 川 口 英 孝
	えさん漁業協同組合楳法華支所	欠 席	
	函館東商工会	会 長	なか いち しのぶ き 中 市 敏 樹
	函館市第28方面民生児童委員協議会	会 長	あら や しのぶ ひこ 新 谷 敏 彦
	函館市楳法華支所	支所長	み はら かつ ゆき 三 原 克 幸
南茅部	南茅部町内会連絡協議会	会 長	くま がい ぎ いち 熊 谷 儀 一
	南かやべ漁業協同組合	専務理事	なか むら まさ し 中 村 正 俊
	函館東商工会	副会長	さ とう しのぶ し 佐 藤 俊 司
	函館市第29方面民生児童委員協議会	会 長	さ さ き まさ こ 佐々木 昌 子
	函館市南茅部支所	支所長	いけ だ とし はる 池 田 敏 春
事務局	戸井支所地域振興課	課 長	たか ゆきこ 高 由起子
	戸井支所地域振興課	主 査	かわ しま しのぶ お 川 島 敏 男
	恵山支所地域振興課	課 長	かり きつ たけ ま 桐 澤 武 磨
	恵山支所地域振興課	主 査	さ の のぶ ひこ 佐 野 の 暢 彦
	楳法華支所地域振興課	課 長	いわ い たい 丈 岩 井 丈
	楳法華支所地域振興課	主 査	にし かわ ひろ し 西 川 裕 志
	南茅部支所地域振興課	課 長	むら た つよし 村 田 剛
	南茅部支所地域振興課	主 査	おお すみ ひろ ゆき 大 住 洋 之
オブザーバー ほか	戸井支所産業建設課	課 長	はた の たくあ 野 富 和
	恵山支所産業建設課	課 長	まち や あつ し 町 谷 篤 志
	楳法華支所産業建設課	課 長	やま ぐち ちから 山 口 力
	南茅部支所産業建設課	課 長	と やま てる 外 山 覚
	企画部計画推進室交通政策課	課 長	よこ やま のり かず 横 山 敬 一
	企画部計画推進室交通政策課	主 査	わた なべ たい き 渡 辺 大 輝
	企画部計画推進室交通政策課	主任主事	ぬま た しんのすけ 沼 田 伸之輔
	企画部計画推進室計画調整課	主 査	やま ぐち けい 介 山 口 敬 介
	企画部計画推進室計画調整課	主任主事	ほそ こし たい き 細 越 大 毅

令和4年度 函館市東部地域まちづくり懇談会
「函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方について」

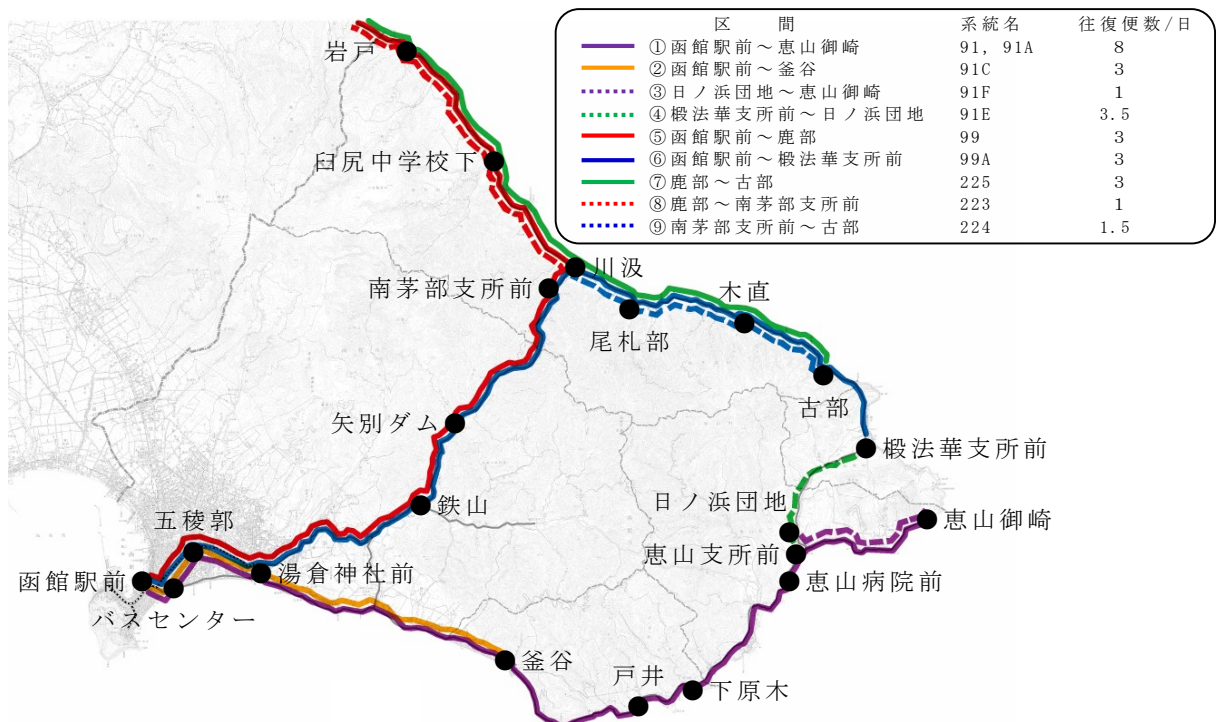
企画部計画推進室交通政策課

これまで、市では平成27年に策定した「函館市地域公共交通網形成計画」に基づき、バス路線網の再編による利便性の向上や、公共交通の利用環境向上に努めてきております。この計画の中で、東部地域については、「地区特性に応じた交通ネットワークの構築」を行うこととしており、これまで、地域公共交通を取り巻く厳しい要因とされてきた人口の減少や少子高齢化の進展、マイカー利用の普及などに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、人々の生活様態の変化による利用者減少により、一層、その必要性が高まっています。

このようなことから、市では、地域にお住まいの皆様のご意見を伺うとともに、各種調査の結果等を踏まえ、今後の東部地域に適した地域公共交通のあり方を検討していきます。

1. 東部地域における地域公共交通の運行状況

現在、東部地域全域で、函館バス(株)の路線バスが運行しています。



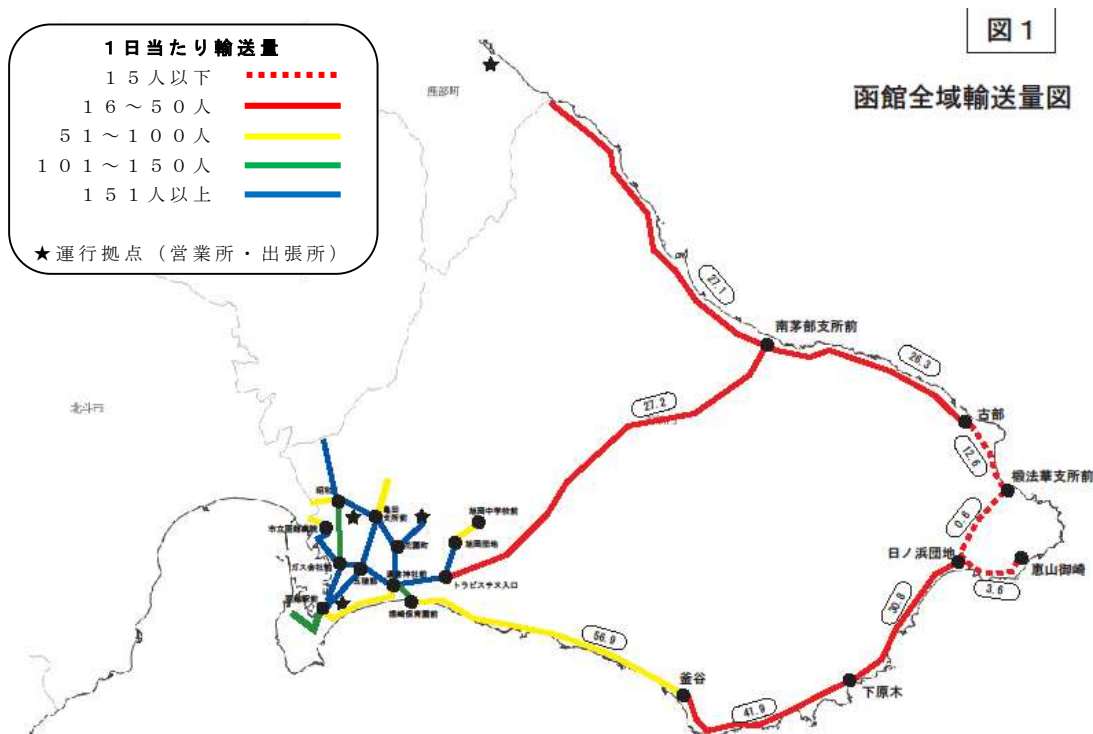
< 図1 東部地域路線バス経路図 >

その一方、各支所管内にはそれぞれ「地域福祉バス」が運行しており、地域住民の社会活動等に必要な移動手段となっています。

2. 東部地域における路線バスの利用状況

東部地域は、その地形的な特性から、路線バスの経路は必然的に長大化する傾向で、路線バス事業者による効率化が図りにくい状況にあり、利用者数は従前より決して多いとは言えない状況の中で、新型コロナウイルス感染症の影響により更に減少傾向にあることから、極めて厳しい経営状況にあります。

令和4年3月に開催された「令和3年度第5回 函館市生活交通協議会」において、路線バス事業者である函館バス(株)から路線の維持困難を示す資料(別添のとおり)が提出され、「協議会の場でより良いあり方を協議し、地域に適した路線の維持を図りたい。」との意向が示されています。



< 図 2 函館全域輸送量図(協議会提出資料から抜粋) >

これによると、東部地域では1日あたりの利用者数が極端に少なく、中には1人未満という路線もあり、かなり厳しい状況であることが分かります。

3. 検討の方向性について

今後、新型コロナウイルス感染症の影響が無くなったとしても、この間に変化した人々の生活様態は一定程度定着しており、公共交通利用者の数が完全には元に戻らないことが予想されていることから、以下の点を踏まえ、本市では路線バスに限らない地域公共交通の検討を進めてまいります。

- (1) 現在の路線バスが果たす役割を継承し、自家用車を利用できない状況にある地域住民が取り残されないための公共交通手段の確保
- (2) 輸送人数の少ない地域においては、大型車両にかかわらず、小型車両を活用した柔軟な経路・ダイヤの設定
- (3) 利用者にとって過重な負担とならない料金設定と、運行経費の節減に努め、かつ持続可能な公共交通網の構築

4. 今後の調査について

現在、市では、現行の「函館市地域公共交通網形成計画」の次期計画に当たる「函館市地域公共交通計画」の策定作業を行っており、地域の概況や現在までの地域公共交通の利用状況等の調査を進めております。

今後は、地域の皆様と直接お話しして、地域の需要調査を進めていきたいと考えており、地域の皆様と直接お話しするにあたっては、参加者が少人数のグループに分かれて意見を出し合うワークショップ形式で、北海道教育大学函館校で地域学を学ぶ学生を交えて、忌憚のない意見をいただける場を設けたいと考えており、4地域それぞれで、10月と12月に各1回の開催を予定しています。

将来の東部地域の公共交通を考えるうえで、地域の皆様の声をお聞きすることは非常に重要でありますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和 4 年 3 月 23 日

函館市内における路線バスの現状について

函館バス株式会社

代表取締役社長 森 健二

1. 路線バスの現状について

現在、全国の路線バスは、人口減少やマイカー利用によるバス利用者の減少によって、路線縮小や減便を含めた事業規模の縮小・効率化を進めている状況にあり、国土交通省の自動車輸送統計によると、乗合バスの利用者は1968年の101億4400万人をピークに、2015年には42億7000万人と半分以下に減少しており、バス事業自体を廃止する事業者も出てきている状況にあります。

この状況下で、新型コロナウイルスの感染拡大による外出控えや学校休校の影響もあり、北海道内の令和2年度路線バス利用者は前年比3割減と大幅に減少しておりますが、市民生活を支える公共交通という性質上、多くの路線バス事業者では、大幅な減便等による対応ができず、非常に厳しい経営環境にあります。

弊社においても、今後の事業継続を鑑み、事業改善・収支改善を継続して実施しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、なかなか改善がすすまない状況となっております。別添の「図1__函館全域輸送量図」は、函館市内における主要路線の輸送量（※）を示しておりますが、東部地域を中心に、非常に厳しい状況が確認できるほか、旧市内エリアにおいても、これには描かれていない細い路線で慢性的に赤字となっている路線が多数存在しており、今後の安定した路線バス運行の維持のため、これまで以上に路線の効率化を進めていく必要があります。

※輸送量：年間輸送人員から算出した、運行キロ当たりの1日乗車人員

2. 東部地域バス路線について

(1) 現状

函館市東部に位置する、旧戸井町・恵山町・楸法華村・南茅部町の東部4地域路線については、地域福祉バス等の無料の移動サービスが競合し、従来から厳しい環境に置かれており、函館市地域公共交通網形成計画（再編実施計画2019-2021）においても、東部地区を運行する路線バスの慢性的な赤字の解消や路線維持のため、地域福祉バス等の路線バスへの混乗化などについて、地区の特性を踏まえながら地域関係者と十分に協議のうえ、見直しを図ることとなっておりましたが、協議のなかで、今後さらに人口減少が進み、混乗化などによる増収効果は限定的なものになるという見通しもお聞きしており、これによる路線バスの運行維持は難しいものと考えています。

このことから、将来的に抜本的な見直しが避けられない状況にありながら、これまでは、減便等による効率化を行うことで、なんとか東部地域のバス路線を維持してきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用者が急減し、国の補助路線である地域間幹線系統の6路線のうち4路線が国の補助基準を下回る、輸送量15人未満となっているため、渡島地域生活交通確保対策協議会において承認を受け、現在は一時的に補助を継続しており、コロナ後の状況を見極めて早急に見直しをしなければ、今後、国の補助の対象外となる可能性が高く、路線の維持がさらに困難になると考えております。

(2) 今後について

弊社では、国の「地域間幹線系統」維持基準である「輸送量15.0(人/日)」を維持困難路線の目安の一つとして考えており、別添「図1__函館全域輸送量図」に市内主要路線の輸送量を図示しております。

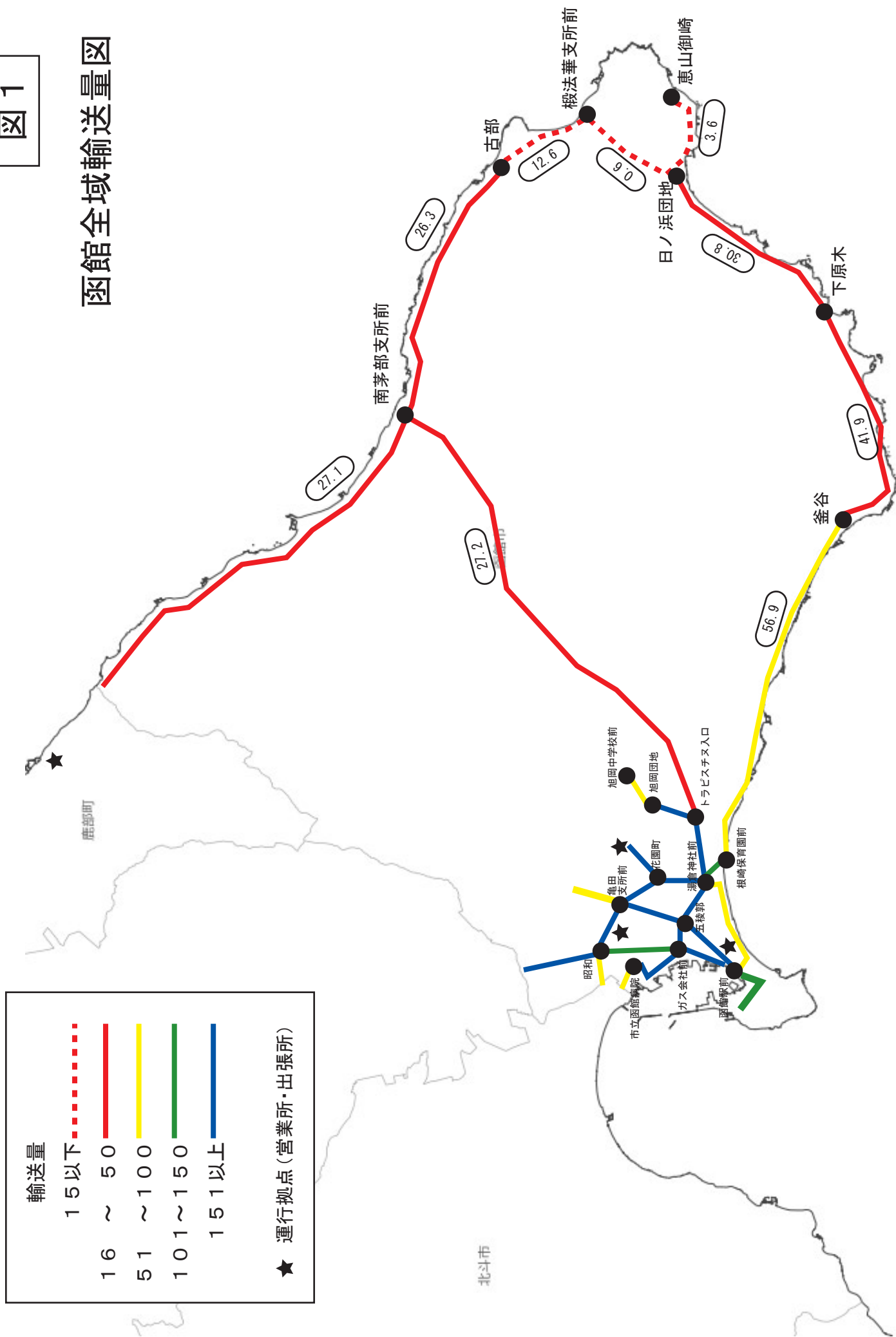
東部4地域の路線の内、特に「古部～日ノ浜団地～恵山御崎」間については、1日の輸送量が15人以下(赤破線)の「維持困難路線」となっており、早急に路線の見直しが必要であり、他の区間についても輸送量50人以下と他の市内路線と比較すると利用者が少なく、非常に多額の赤字を出しての運行となっている現状を鑑みると現状の路線を長期的に維持するのは難しいと考えております。

また、東部地域については、その地形的な特性から、海岸線を走る長大路線にならざるを得ず、他の市内路線のような路線の統合等による効率化が難しいことに加え、弊社の各拠点から遠いことから、乗務員の拘束時間や燃料費等、運営面からみても他の路線より多く負荷が発生しています。

弊社では、市民の生活の足を守るという公共交通事業者の使命として、多くの方にご利用いただいている幹線系統をはじめ、市内の多数の路線を維持していきたいと考えており、これら維持が難しくなっている路線について、協議会の場でより良いあり方を協議し、地域に適した路線の維持を図りたいと考えております。

図1

函館全域輸送量図



《 参考：東部路線各線（地域間幹線系統）輸送実績 》

系統名	年度	キロ程 km	運行回数 (便/日)	輸送人員数 人	赤字額	補助金	補助金収入込 収支額	対前年度 収支増減率
9 1 C系統 函館BC～ 釜谷	R元年度	23.2	3.2	33,008	-3,475,287	2,893,200	-582,087	—
	R 2年度	23.2	3.4	24,284	-4,005,969	2,591,600	-1,414,369	-143%
	R 3年度	23.2	3.4	20,437	-3,703,248	2,661,400	-1,041,848	26.3%
9 1・9 1 A系統 函館BC～日ノ浜団地 ～恵山御崎	R元年度	53.6	7.9	118,900	-27,853,755	24,010,000	-3,843,755	—
	R 2年度	53.6	7.9	92,559	-37,120,194	25,919,600	-11,200,594	-191.4%
	R 3年度	53.6	7.9	87,161	-37,086,899	27,137,800	-9,949,099	11.2%
9 9 A系統 函館BC～ 椴法華支所前	R元年度	54.1	3.0	60,984	-10,678,898	9,353,000	-1,325,898	—
	R 2年度	54.1	2.9	44,252	-12,488,199	9,467,200	-3,020,999	-127.8%
	R 3年度	54.1	2.9	42,564	-11,709,500	9,493,400	-2,216,100	26.6%
9 9 系統 函館BC～ 鹿部出張所	R元年度	55.7	3.0	91,973	-10,806,499	8,740,000	-2,066,499	—
	R 2年度	55.7	2.9	58,225	-13,766,653	9,722,000	-4,044,653	-95.7%
	R 3年度	55.7	3.0	54,140	-14,979,160	10,290,000	-4,689,160	-15.9%
9 1 B系統 函館BC～ 下原木	R元年度	35.2	3.2	71,821	-5,803,517	5,022,000	-781,517	—
	R 2年度	35.2	2.9	50,449	-8,242,255	5,008,600	-3,233,655	-313.8%
	R 3年度	35.2	2.9	45,132	-8,625,228	5,227,800	-3,397,428	-5.1%
2 2 5 系統 鹿部出張所～ 古部	R元年度	36.8	3.1	63,191	-6,242,538	4,284,000	-1,958,538	—
	R 2年度	36.8	3.0	52,485	-9,100,377	4,818,400	-4,281,977	-118.6%
	R 3年度	36.8	3.4	45,318	-10,187,798	4,497,000	-5,690,798	-32.9%
合 計	R元年度	258.6	23.4	439,877	-64,860,494	54,302,200	-10,558,294	—
	R 2年度	258.6	23.0	322,254	-84,723,647	57,527,400	-27,196,247	-157.6%
	R 3年度	258.6	23.5	294,752	-86,291,833	59,307,400	-26,984,433	0.8%

報告事項

分科会活動報告（令和4年4月～9月）

1 分科会の開催状況

(1) 第11回 観光振興分科会

開催日時：令和4年7月21日（木） 午後2時00分～

(2) 第12回 観光振興分科会

開催日時：令和4年8月29日（月） 午後2時00分～

2 「函館イーストエリアガイド」の配布について

(1) これまでの配布状況

資料 2

(2) マップ掲載施設の更新と配布先の見直しについて

- ・増刷時に、必要に応じて観光施設や店舗の情報を時点修正
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の状況を見ながら、マップ配布先の見直し（拡大等）について検討

3 分科会における調査研究の概要

(1) 「函館イーストエリアガイド」のPR効果増大に向けた取り組みについて

《スマートフォン利用者へのPR効果増大策》

- ・QRコード掲示によるマップ（データ版）の配布

資料 3

(2) 今後の観光振興に向けた調査研究について

各地区における観光振興に関する取り組みの内容や効果、改善点などについて情報共有したうえで、それぞれの取り組みごとに、連携する範囲や内容について協議し、効果的な連携体制のもとで取り組みを進めることで、東部地域全体の魅力向上を図っていく。

「函館イーストエリアガイド」の配布状況

	配置数	これまでの配布数	残 数	備 考	
戸井	700	355	345		
	戸井ウォーターパーク	495	259	236	
	西部総合センター	100	70	30	
	戸井支所ほか	105	26	79	
恵山	2,400	1,700	700		
	なとわ・えさん	790	700	90	
	飲食店（4カ所）	200	160	40	
	恵山支所ほか	940	840	100	函館空港へ500
	予備	470		470	
椴法華	600	296	304		
	ホテル恵風	500	274	226	
	椴法華支所ほか	100	22	78	
南茅部	5,300	4,700	600		
	ホテルひろめ荘	1,300	1,100	200	
	縄文文化交流センター	3,000	2,700	300	
	垣ノ島遺跡オープンセレモニー	200	200	0	
	南茅部支所ほか	800	700	100	青森観光コンベンション協会へ500
合計	9,000	7,051	1,949		

（その他の配布状況）

- ・本庁舎（観光部）へ1,000部配布
- ・第一生命では、キャンペーン時に独自に印刷したイーストエリアガイド1,532部を配布

QRコード掲示によるマップ（データ版）の配布について

QRコード（そのまま読み込みできます）



各施設に触れると、
Googleマップの案内ページへ

今年3月30日にオープンした
函館空港内「LOCAL INFORMATION がっつり道南」PRブース